

視覚障害者の就労におけるICT環境と課題 —アンケートによる実態調査から見てきたこと—



認定NPO法人 視覚障害者の就労を支援する会
(通称: タートル)



タートルICTサポートプロジェクト

- 山田尚文 (タートル 理事)
- 伊藤裕美 (タートル 理事)
- 大橋 正彦、神田 信、熊懷 敬、高原 健、松坂 治男、吉泉 豊春
(タートル)

目次

1. はじめに
 2. 背景
 3. タートルICTサポートプロジェクトの活動
 4. 職場における視覚障害者のICT環境
 5. 職場のICTで困っていること
 6. まとめ
- 【参考】 タートルICTポータルサイトのご紹介

1 はじめに

**認定NPO 法人視覚障害者の就労を支援する会
(通称:タートル)は、視覚障害者の就労支援に
特化した当事者団体。**

- 1995年発足以来、30年にわたり活動
- 所在地:東京都新宿区
- 会員、スタッフは全国に広がっており全国規模で活動
- 主な事業:就労相談、交流・研修、就労啓発・情報提供等
- 年間、約700件、200人以上(2024年度実績)の就労相談を受けている。

2

背景

デジタル化の進展で視覚障害者の就労環境は大きく変化してきているが、一般には必ずしも知られておらず、視覚障害者の雇用環境は依然として厳しい。

[技術の進化と就労環境の変化]

- デジタル化の進展で多くの事務仕事がパソコン上で完結
- スクリーンリーダーや画面拡大などの支援技術が進化
- 視覚障害があっても訓練を受けることで、多くの職種で就労可能
→ 幅広い職種で視覚障害者が活躍している(職域の拡大)

[課題]

- 雇用主など一般には、上記の状況がほとんど知られていない
- 職場のICT環境の進化が早く、アクセシビリティも不十分
- 働く視覚障害者にストレス → 専門的な支援と配慮が必要

3 タートルICTサポートプロジェクトの活動

84.6%の視覚障害者が困っている職場のデジタル環境！

(2020年12月にプロジェクトで実施したアンケート結果より)

[目的]

視覚に障害があっても、当たり前には働き続けるために、視覚障害者の就労におけるICTのさまざまな課題に取り組む。

[経緯]

近年のICT技術の進化は、働く視覚障害者の就労機会を大きく広げる可能性がある反面、業務のデジタル化に対応するため視覚障害当事者に負荷がかかるなど、新たな課題が出てきている。

こうした課題を解決すべく、タートルでは2020年11月にICTサポートプロジェクトを立上げて活動している。

活動実績(2025年10月まで)

ICTグループメールやICTサロンを通じて参加者間での情報交換と意見交換の場が定着、困りごとの解決につながっている。

1. ICTグループメールによる情報交換(登録者数:約400名)
2. ICTサロン(奇数月の第1日曜日に定例実施): 23回実施
 - ・テーマを決めた講演会・パネルディスカッション: 8回
 - ・ビギナーズサロン/なんでも相談会: 8回 ・他団体との共催イベント: 2回
 - ・ライトニングトーク: 3回 ・その他: 2回
3. アンケート等による実態調査と結果公開
 - ・視覚障害者の就労におけるICT環境実態調査アンケート: 2020年12月
 - ・スクリーンリーダー・拡大機能利用のWindowsPC環境実態調査: 2021年11月
 - ・視覚障害者の就労におけるICT支援状況調査: 2023年7月
 - ・職場における視覚障害者のICT実態調査2025: 2025年4月 ←本発表で説明
4. ポータルサイトによる情報発信: 活動実績、ノウハウ集、事例集等

4

職場における視覚障害者のICT環境

- ・ アンケート調査の目的：
視覚障害者の就労環境におけるICTの実態と課題を把握する。
- ・ 実施期間： 2025年4月
- ・ 総回答数： 74件
- ・ 回答者の状況：

表1 職種(複数回答あり)

職種	人数	%
事務系	37	50%
技術系	20	27%
教員	3	4%
営業・販売・サービス	6	8%
理療系	8	11%
専門職	10	14%
その他	4	5%

注： %は、回答総数74人に対する%

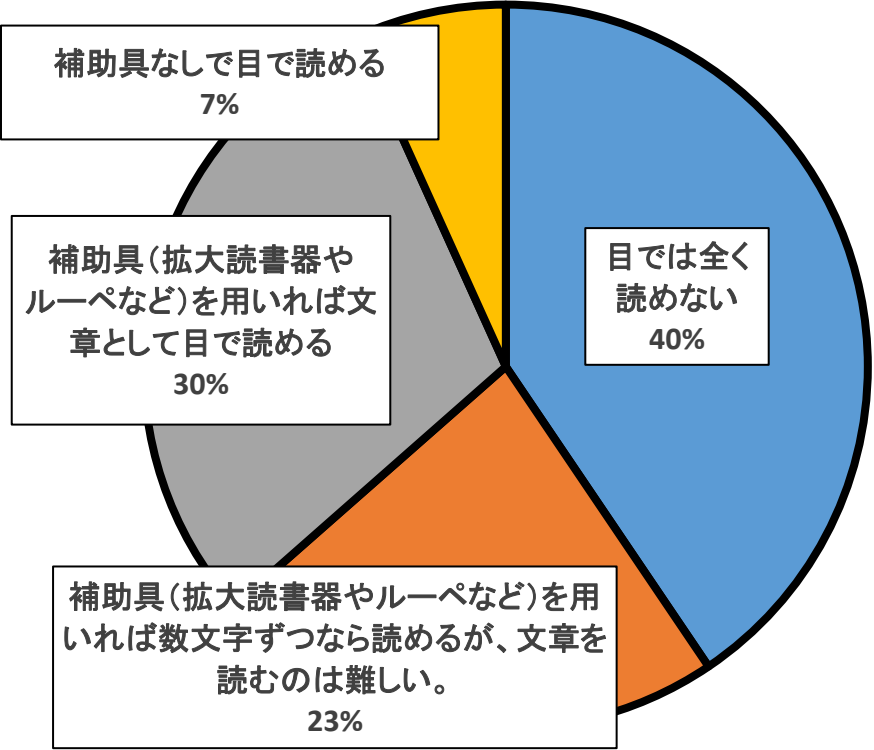


図1 見え方

(1) 勤務スタイル

プロジェクト立ち上げ時は在宅勤務から取り残される視覚障害者が多かったが、現在は、事務系、技術系を中心に、約半数が在宅勤務を活用している。

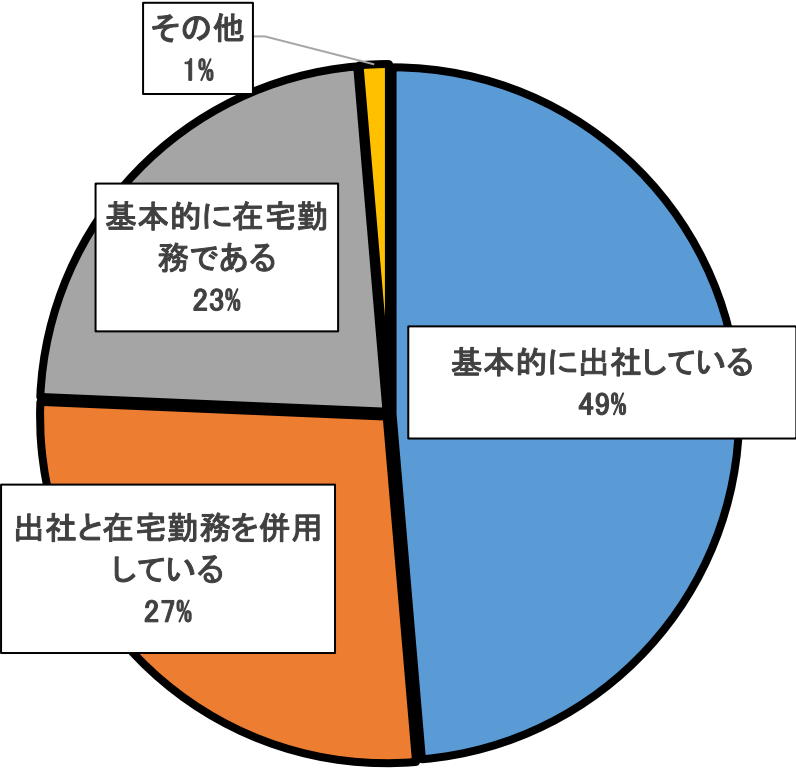


図2 勤務スタイル

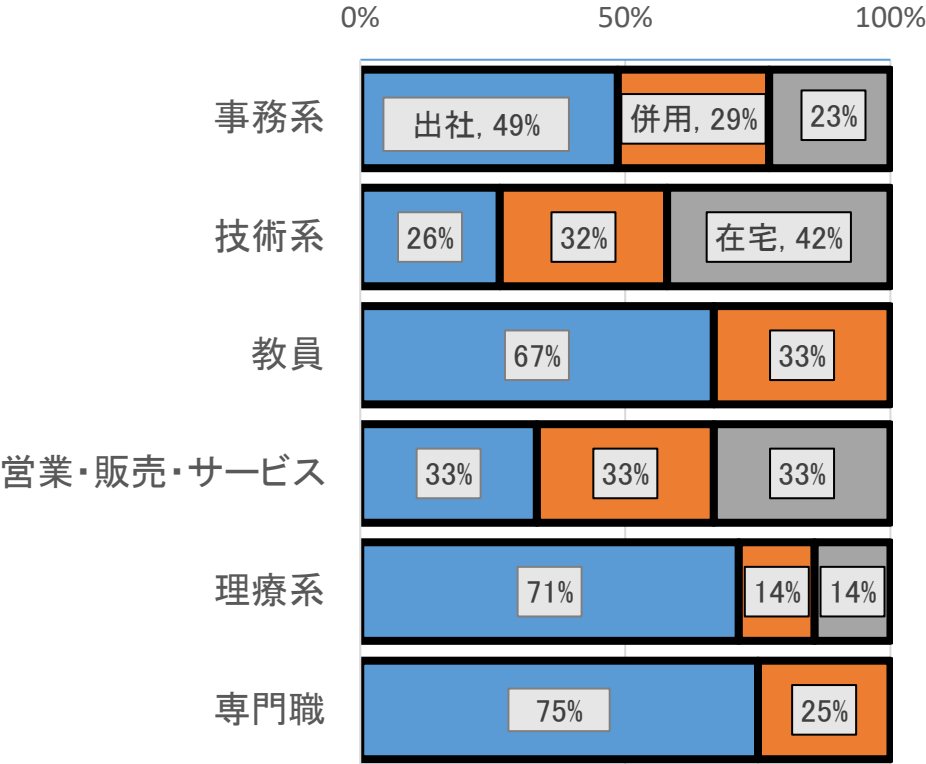


図3 職種別勤務スタイル

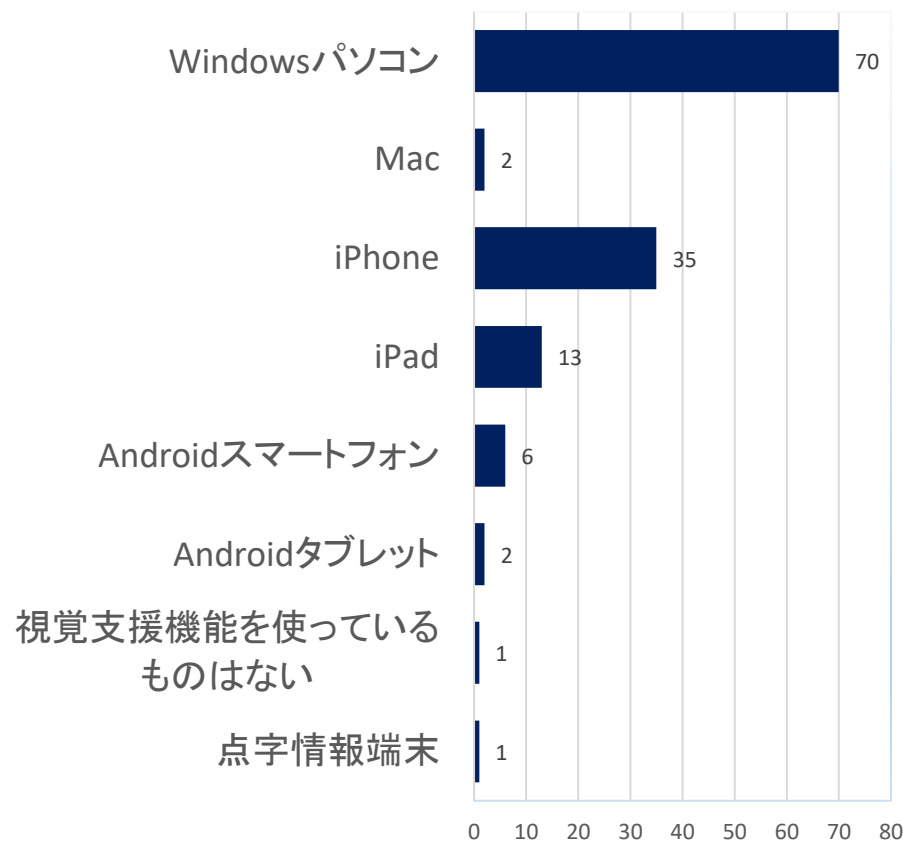
(2) 職場で使用しているICT機器

- ・ほとんどの視覚障害者がWindowsパソコン(95%)を使用。
- ・iPhone(47%)、iPad(18%)の職場での利用も増加。

表2 職場で使用しているICT機器（視覚支援機能を使用しているもの）

ICT機器	件数	%
Windowsパソコン	70	95%
Mac	2	3%
iPhone	35	47%
iPad	13	18%
Androidスマートフォン	6	8%
Androidタブレット	2	3%
視覚支援機能を使っているものはない	1	1%
点字情報端末	1	1%

注: %は、回答総数74人に対する%



(3) 使用している視覚支援機能や補助具

- ・ 使用している視覚支援機能は、スクリーンリーダー(82%)が多い。
- ・ 全盲の方の約半数が点字ディスプレイを使用している。
- ・ 弱視の方は、PC等の画面拡大/調整、拡大読書器を併用している方が多い。

表3 使用している視覚支援機能や補助具

視覚支援機能	a) 全体		b) 全盲		c) 弱視	
	件数	%	件数	%	件数	%
スクリーンリーダー	61	82%	29	97%	31	79%
PCやスマホの画面拡大・画面調整	38	51%	0	0%	35	90%
拡大読書器	21	28%	0	0%	21	54%
点字ディスプレイ	15	20%	14	47%	1	3%
点字プリンター	3	4%	3	10%	0	0%
特に使用していない	2	3%	0	0%	0	0%
その他	1	1%	0	0%	0	0%

注: a) 全体: 74人:
b) 全盲(目では全く読めない): 30人
c) 弱視(補助具を用いれば数文字ずつ読める + 補助具を用いれば文章として読める): 39人
※%は、各々の回答総数に対する%

【参考】スクリーンリーダーの種類とスマホの視覚支援機能

- ・パソコンのスクリーンリーダーは、PC-Talkerが最も多い(57%)
- ・職場でもNVDAのシェアが増加してきている(41%)
- ・スマホ・タブレットでは、VoiceOverやTalkbackなどのスクリーンリーダーが51%、他に画面調整(32%)、画面読み上げ機能(20%)などの音声機能が使われている。
- ・弱視の方は、スマホ・タブレットにおいても画面調整などの視覚支援機能を利用。

表4 使用しているスクリーンリーダー
(パソコン)

種類	件数	%
PC-Talker	42	57%
NVDA	30	41%
JAWS	9	12%
ナレーター	22	30%
VoiceOver	2	3%
ブラウザ読み上げ機能	2	3%
スクリーンリーダーは 使用していない	10	14%

注: %は、回答総数74人に対する%

表5 使用している視覚支援機能
(スマホ・タブレット)

視覚支援機能	件数	%
VoiceOver又は、Talkback	38	51%
画面読み上げ機能	15	20%
画面調整(色反転。文字拡大)	24	32%
アクセシビリティ機能は使っていない	10	14%
ホワイトポイントを下げる	1	1%
職場ではスマホとタブレットは使 用していない	12	16%

注: %は、回答総数74人に対する%

5

職場のICTで困っていること

職場で使用しているグループウェアや業務アプリなどの社内システム、アクセシビリティに配慮されていないPDFや画像データの把握に苦労している視覚障害者が多い。

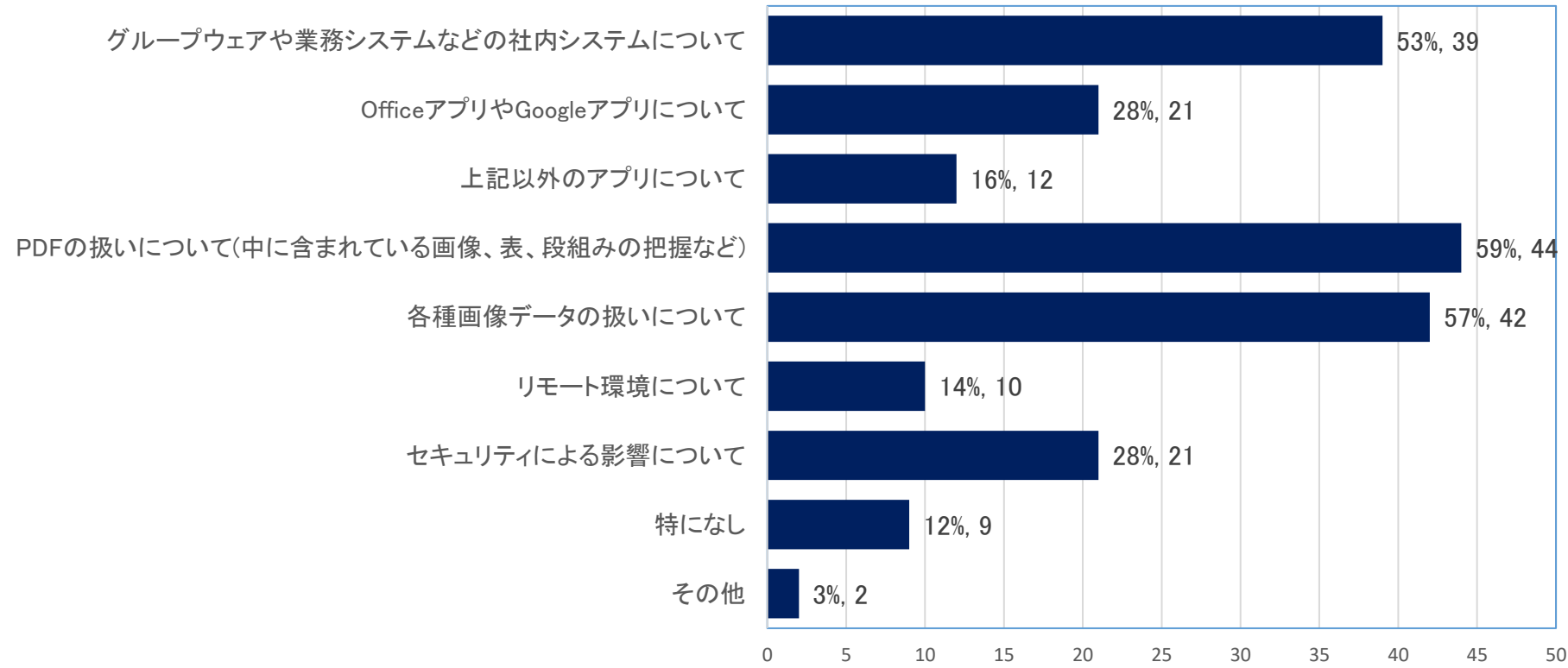


図1 職場で困っている項目(回答者数74人:複数回答)

注: %は、回答総数74人に対する%

【参考】 職場で困っていることの具体例

① グループウェアや業務システムなどの社内システムについて

- 勤怠管理、出張・休暇申請、業務支援システム、SharePointなどがスクリーンリーダー非対応で使えない。

② OfficeアプリやGoogleアプリについて

- Google Workspace、Classroom、MsTeams、サイボウズなどで操作が難しい、情報取得が困難。

③ 上記以外のアプリについて

- Visual StudioやAdobe製品などで文字が小さく拡大しても見えにくい。
- アプリごとに操作方法が異なり、毎回使い方を覚え直す必要がある。

④ PDFの扱いについて(中に含まれている画像、表、段組みの把握など)

- スキャンPDF、画像形式の図や表、PowerPointのPDFなどがスクリーンリーダーで読めず理解できない。WindowsナレーターがPDFを読めない。

⑤ 各種画像データの扱いについて

- eラーニングや社内教育の教材が音声読み上げに対応しておらず、内容を把握できない。
- コピー機や電子錠などがタッチパネル前提で音声読み上げがなく、自力での操作が困難。

⑥ セキュリティによる影響について

- PC-Talkerのアップデートが制限される。

6

まとめ

1. デジタル化に対応した訓練・支援が不可欠

デジタル化の進展により視覚障害者の職域は広がっているが、こうした環境に対応するためスクリーンリーダーなど支援機能を使ったパソコン操作などの訓練と支援が不可欠。

2. 職場の環境に対応できる専門的な支援の必要性和課題

職場や業務特有の業務アプリなどへの対応には視覚障害者のパソコン操作に精通したジョブコーチなど専門家の支援が必要だが、制度や人材不足、地域差などの課題も多い。

3. 職場の業務アプリやデータのアクセシビリティの課題

職場の業務アプリやデータにはスクリーンリーダーで対応できないものも多い。視覚障害者の就労実態の周知と、こうしたアプリやデータのアクセシビリティ向上の施策が重要。

4. 視覚障害者の就労実態の一般への周知

視覚障害者の就労実態を雇用主を含めた一般へ広く知っていただくことで、視覚障害者の就労環境の改善と雇用拡大につなげていく必要がある。

【参考】 タートルICTポータルサイトのご紹介

<https://www.turtle.gr.jp/ict/>

[主なコンテンツ]

- イベント情報、お知らせ
- 活動内容:
 - 活動紹介
 - 活動報告
 - 調査報告(アンケート結果等)
- お役立ち情報:
 - 視覚障害者のPC操作について
 - ノウハウ集:
 - 事例紹介(インタビュー記事等)
- 職場や開発者の方へ:
 - 合理的配慮について(事例集など)
 - 障害者雇用に対する助成制度・支援制度
 - ソフトウェアなどのアクセシビリティについて



END

視覚に障害があっても、当たり前にも働けるICT環境を
それが、私たちの目指すもの!

(タートルICTサポートプロジェクトキャッチフレーズ)

認定NPO法人視覚障害者の就労を支援する会(タートル)
電話: 03-3351-3208

タートルホームページ: <https://www.turtle.gr.jp/>

ICTポータルサイト: <https://www.turtle.gr.jp/ict/>

